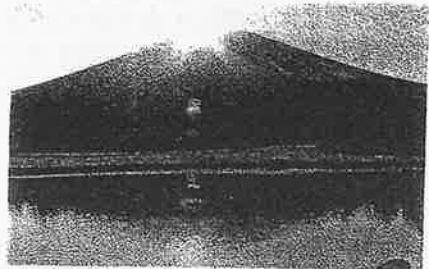


やまぼうし通信

NO. 122 2021年1月10日

未曾有の危機が続く中、想いを一つにし、一人ひとりの命と暮らしを、支え抜きましょう！！



認定NPO法人 やまぼうし 理事長 伊藤 勲

今年は、昨年以上の深刻なコロナ禍の洗礼をあびる中での年明けとなりました。地球全体を覆いつくすコロナの感染拡大が意味するものは何なのか深く考えねばなりません。経済成長（利益）第一主義による環境破壊と貧富の差の拡大による生存の危機が、一気に深刻化しています。この危機を乗り越えていくためには、私たち現代人の暮らしと労働の抜本的見直しが求められています。

「コミュニティカフェ事業の改革」に総力を投入してきました！

この間、やまぼうしの事業基盤を再構築し、次世代に安心して継承していく体制創りを最大の課題としてきました。しかし、コロナ禍は、飲食業界に致命的な打撃を与え、廃業が日増しに拡大しています。やまぼうしも、障害者の就労支援事業の中核にコミュニティカフェを位置付けてきたため、事業存続の危機に直面してきました。そうした中で、昨年7月より、法人内に「カフェ事業改革推進プロジェクト」を立ち上げて、従来のカフェでの販売がほぼ全面休止となる事態の打開に、法人挙げて対応してきました。その結果、ランチ・弁当販売の比重を下げ、新たにグループホームへの夕食に加え、「真空パック」方式による朝食と土日祝日の食事提供体制を年末までに整備することができました。これは、やまぼうしの通所部門とグループホーム部門と関係者の熱い熱意に支えられ、初めて新たな事業分野を開拓することができたといえます。皆様のご尽力に改めて、感謝申し上げます。おかげさまで、利用者の皆様の仕事の機会と事業収入の確保が可能となり、事業所継続の可能性を見出すことができました。しかし、事業形態の更なる見直しも迫られことが予測されます。

しかも、年明けからのコロナ感染爆発は、いつ法人内に集団感染が起きるか予断を許さない状況です。感染防止と感染者が発生した事態悪化に備えて、より一層体制強化することが急務となっています。

今年は丑年です。「たゆまずば 牛の歩みも また千里」の志～未来志向で歩みましょう！！

今年は、おちかわ屋を創業して35年、やまぼうしを創設して20年、農福連携のスローワールド事業ネットを立ち上げて、10年の年です。

昨年6月に、やまぼうしの3か年計画の基本目標としてきた「新たな社会的企業」（ソーシャルファーム）の創設が、多くの関係団体と事業連携して、立ち上げることができました。また、昨年末には「労働者協同組合法」が20年かけて全政党の支持を受けて議員立法で成立し、2年後に施行されます。労働者協同組合は、「株式会社とは違い、働く人が出資者となり、話し合いの中で協同で仕事をおこし、お互いが「良い仕事」ができるようにするための働き方を目指しています。1985年におちかわが創業したとき、重度障害者の働く機会は全くありませんでした。しかし、日野療護園の入居者と職員有志5人が、300万円の協同出資をして、「脱施設・脱福祉」の「街の八百屋」を創業（今日の労働者協同組合だ）したのがはじまりです。やまぼうしの次の10年は、「事業型NPO法人の壁」を打開していく10年です。「共に生き、働くまちづくり」のやまぼうしが、「労働者協同組合」とも事業連携して「プラットフォーム型ソーシャルファーム」（一般社団法人）を軸に「ソーシャルチェンジする」という新たな歴史に挑む時代のスタートの年を迎えました。

内定就松園



さらなる 「誰もが安心して暮らせるまち」「共生・共働のまち」を「市民協働」で！

「ソーシャルファーム ミレットロード（雑穀街道）の 事業計画」の概要

～「スローワールド事業」をベースに 多機関連携での新たなステージへ～

ミレットロードは、NPO法人やまぼうしの事業蓄積を活かし 新たな事業連携システムを開発します！

2001年に、おちかわ屋を母体に、「NPO法人やまぼうし」を創設しました。2010年からは、由木かたくりの会・多摩草むらの会や各地の有機食材の生産者と「農福連携を軸にした自立と共生のスローワールド事業」を立ち上げました。そして、各地の生産地とつながり、食材の加工・販売の「6次産業化」にチャレンジしてきました。その結果、やまぼうしは「多様なコミュニティカフェ」事業を中心に年間事業費が5億円台の事業体に成長し、認定NPO法人の認証も取得しました。しかし、この間「事業型NPO法人としての事業資金調達壁」（寄付金依存体質）と「福祉就労の枠内では供給者主導になる壁」（支援する、支援される関係が固定化）に直面してきました。

今年、やまぼうしは創設20周年を迎えますが、「経営改善3か年計画」の課題として、「法人の事業規模の適正化」と「法人の事業執行体制の再編強化」を図るとともに、「社会的企業の創造」を組織目標にすえてきています。一昨年の山梨県西原村との交流プログラムを皮切りに、この間、ソーシャルファームとして事業受託することを視野に入れて、日野市クリーンセンターでの「就労困難者への就労支援事業」や「都多摩障害者スポーツセンター内カフェ」事業の受託の準備を進めてきました。そして、ECOMやワーカーズコープ・社会連帯TOKYO等の関係団体と協議を重ね「一般社団法人ミレットロード」（代表理事伊藤勲）を昨年6月に立ち上げて、「新たな事業連携システムの構築」が大きく進展しました。「やまぼうしの20周年記念事業」として新たな事業基盤づくりに参画し、やまぼうしの次世代の事業展望を追求していくこととします。

☆ミレットロードは、フラットホーム型ソーシャルファームの創造にチャレンジします！

- ①ミレットロードは、「自然と人とが共生し、持続可能で多様性と包摂性のあるコミュニティとディセントワーク（働き甲斐のある人間らしい仕事）の実現」を基本的事業目標とします。
- ② 基本目標実現のために、農・福・商・学・官連携を軸に、ソーシャルファームの多面的な拠点の構築にとりくみ、障害者等の就労困難者が多様な働き方ができるコミュニティビジネス事業を推進します。
- ③具体的な事業分野としては ☆F（フード）E（エネルギー）C（ケア）自給圏のローカルネットワークを形成する。☆市民・企業・行政・大学とのローカルSDGsの目標実現と「共生型事業拠点」を構築する事業☆コミュニティカフェと多世代交流サロンの活性化事業☆ アンテナショップのネットワーク化事業

☆「ミレット交流プラザ」（おちかわ屋2F）をコア事業所として、以下の事業分野を軸に事業創造します。

- ①有機食材の仕入れ・配送事業 ②障害者GH・子ども食堂等への配食配送事業 ③大学やマルシェへの出張販売事業④乾燥おから・野菜等の加工製造事業 ⑤コミュニティカフェ運営支援事業 ⑥多様な居住支援の場（共生型シェアハウス）づくり事業を順次具体化していきます。

《新型コロナ禍の長期化は、改めて持続可能な社会とグリーンでクリーンな社会経済へのシフトを時代の要請としています。大失業時代の到来が懸念される状況下で、介護・医療・食品・農業関連分野は、軒並み事業存続の危機に直面し、「利益第1主義の経済」から「社会連帯経済」への移行を共通の課題としてきています。また、就労困難層とみなされてきた人々に短時間労働からスタートできる機会を保障し、これまでの「企業就労」と「福祉就労」とは異なる「新たな社会的就労」の場づくりによる活躍の機会の増大にチャレンジします》

この目標実現に向けて、次のような 多機関・事業体とのネットワークの形成を予定しています。

- ① NPO法人やまぼうしが市より受託している 日野市障害者生活・就労支援センターとのコラボレーション
- ② 日野市クリーンセンターでの障害等就労困難者の就労支援事業との連携③東京都で初の「SDGsの未来都市」の指定を受けた日野市及び日野市商工会・社会福祉協議会との連携（法人が各種委員として参加）。④ワーカーズコープの立ち上げた「社会連帯TOKYO」（伊藤理事長が評議員）の都内各構成団体との連携⑤関東FEC自給圏ネットワークを牽引する ECOM との協働（森良代表は、当法人理事）⑥都内で共に生きる場づくりを長年取り組んできた「社会福祉法人地球郷」との連携⑦離職者の雇用機会の提供と居住支援を継続され、SDGsのゴールの実現を社是としている「多摩防水技研」との提携（草場社長は、やまぼうし創設期からの副理事長）⑧都立産業技術研究センターの異業種交流会（たまたまねっと27）。⑨多様な居住の場づくりの「シーニーハウス（株）」との事業連携。⑩津久井村沢嵐農園・さがみこファームとの交流プログラムの開発実施。当面これらの事業連携をからスタートします。

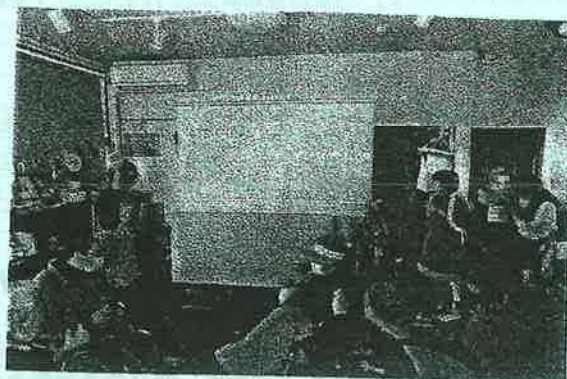
当面、5か年の事業計画を策定し、2021年4月から事業スタートします。

「共に生き、共に働く！」を夢物語に終わらせない想いを 共有できる仲間たちとの 協同作業です。

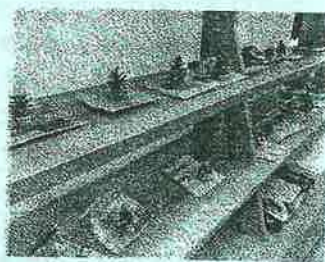
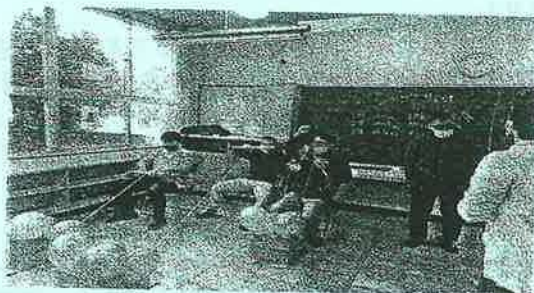
やまぼうしの会員の皆さんの「仕事と暮らしのパートナー」としての参画も期待します。

やまぼうし創設時からの課題の実現に向けたアクションです。

やまぼうしの歳末 素描です。コロナに負けず、エンジョイしました。



スロースペースおちかわ屋のクリスマス会。イオンモール多摩平の森さんからのプレゼントどっさり届けていただき、皆さん大喜び。ショートタイムですが、大いに盛り上がり！



やまぼうし平山台は、センター内教室にて小グループ毎のゲーム企画（手作りF-1レース）で盛り上がっています。クリスマスは、クリスマス飾りで、松ぼっくりを使ったツリーの完成品を店内に展示しました。利用者のみなさんのお土産として持ち帰っていただきました。

聖山耕房房くらさわのクリスマスは、事業所毎でやることになったので、いつもの作業所をパーティー会場にするべく、身近な材料でクリスマスの飾りを作ることになりました。段ボールの輪っかに色々きれいな色のものをボンンドで貼り付けます。多くの人に参加して、綺麗でかわいくてゴージャスな飾りがたくさん出来ました。ボンンドが指先に付いて、それにビーズがたくさんくっついてしまって大騒ぎ！なんてこともあって楽しく作製しています。最後の週には、床磨きや窓ふきや作業所周りの木の剪定など、大掃除もやりました。



保健便り 「カラダが冬ごもり?!」 看護師 小林りか

「冬ごもり」いわゆる冬眠は、厳しい寒さを生き延びるために低体温・低代謝の状態では長期間活動を行わない状態です。私たちヒトは冬眠することはできません。しかし、冬眠を引き起こす遺伝子が組み込まれているようで、冬眠をする霊長類（サル）が見つかっています。また、基礎代謝を自ら下げってしまう現象の「能動的低代謝」は哺乳類に広く見られます。代謝体温が低くなると基礎代謝と免疫力が下がります。低体温によって基礎代謝が下がるのは、消化・吸収・代謝を促進する酵素の働きが鈍るためです。また、免疫力の低下は、白血球の活動が鈍くなるためですが、酵素の働きによって左右される面も小さくさいそうです。酵素 私たちの体の中には、およそ3000種類以上の酵素が存在し、生命を維持するための役割を果たしています。ヒトの健康に関わる酵素の中には、摂取した物を吸収しやすくするための消化酵素と、吸収されエネルギーへと変わったものを体の中で動かす代謝酵素の二つがあります。無数の代謝酵素は「運動・呼吸・脳での思考・老廃物の排出・免疫力を高める・肌の新陳代謝など」生命活動のあらゆるシーンで働いています。代謝酵素は加齢により減少してしまいます。健康のためには代謝酵素の量を増やすこと、代謝酵素の働きをサポートする栄養素が必要となります。食べ物酵素を摂って代謝をUPしよう 食べ物に含まれる食物酵素は体内の酵素をサポートします。1. 野菜、果物、発酵食品を生で食べる。酵素は熱に弱いので、なるべく加熱・加工せずに生の新鮮な食品を食べましょう。2. すりおろして吸収力アップ 野菜や果物に含まれる酵素は細胞壁によって固く閉じ込められているため、すりおろすと吸収率が上がるそうです。また、野菜や果物の皮には多くの酵素が含まれているので皮ごとすりおろしましょう。

コロナの感染爆発の状況が深刻化し、医療・介護現場崩壊の危機が迫っています。

＝法人として取りうる感染拡大防止策を順次実施していきます。事態の変化に迅速に対応し、この危機を乗り越えていきましょう。新年を迎えて、コロナ禍はますます深刻さを増しています。1月7日に厚労省から「緊急事態宣言後の障害者福祉サービス等事業所の対応について」の事務連絡が送られました。（その要旨）1、昨年5月期の事務連絡は廃止する。2、感染防止対策の徹底をした上で障害福祉サービスを継続的に提供する。そのため必要となる費用については、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業が活用可能である。3、柔軟なサービス提供について、在宅勤務（テレワーク）等在宅でのサービス提供が可能である。4、感染拡大防止の観点から事業所が自主的に休業した場合、市町村に連絡した上で、市町村が認めた場合は、通常提供しているサービスと同等のサービスを提供しているとして、報酬の対象とする。4、また、職員による通所先と居宅等での支援の両方を適宜組み合わせることもできる。5、自主的に休業する場合やサービスの縮小をする場合には、①利用者への丁寧な説明②代替サービス（訪問支援や他事業所による支援を確保すること。また、見守り等の必要な利用者への対応については、適切な支援を行うこと。5、感染者が発生した事業所がサービスを提供する上で必要な人員確保等の費用についても検討する。

やまぼうしの「コロナ対策と対応について」

※この事務連絡では、現場が求めている、集団感染（クラスター化）の発生による福祉現場の介護崩壊を如何に防止するかの具体策が示されていません。①PCR検査の支援者・利用者全員の早期実施と公費保障②感染を疑う症状の利用者・支援者の早期入院体制の緊急整備（ベッドの大幅確保）③介護者確保のための応援体制と抜本的な医療・介護従事者への処遇改善策の緊急実施が必要です。しかし、現状が早期に改善され状況にありません。残念ながら、感染の疑いや陽性と判定されても「自宅療養」か「GH療養」を余儀なくされることが避けられないと覚悟しなければなりません。

2020年1月7日の法人本部会議で、当面以下の対応を決定しました。可能な限り、事業継続するためには、感染拡大防止に成果のあった全国の先進的事業所に学びながら、国や行政の指示待ちではなく、法人の主体的な判断で「そこまでやるか」の「自己防衛」策を徹底しなければなりません。今後、順次状況の変化に即応した対処方針を決定し、全職場で統一的な対応をしていただきます。基本的には、感染者の発生した事業所毎に、それぞれの状況に応じた対応をします。「フロア隔離」「居室隔離」などの具体策を柔軟かつ緻密に選択していきましょう！

「やまぼうし information」No3 1月期の対応策（1）

法人としては職員のプライベートについて制限を加えるものではありませんが、感染者・濃厚接触者が生じた場合、職員の健康のみならず、利用者の生活、他法人・地域社会への影響が甚大であることを十分ご理解ください。高齢・基礎疾患のある利用者も多くいます。重症化リスクの高い利用者がいること、職員一人一人の行動が利用者の命に直結することを鑑み行動してください。例）会食、飲み会にとどまらず、同居家族以外の接触を可能な限り減らす。

- ① マスク着用だけでなく職務にかかわらず全員フェイスシールドの着用をお願いします。（目からの飛沫感染防止）。支援内容により困難な場合は、極力可能な範囲で着用してください。使いまわしせず、個人用として使用後は消毒し密閉保存するなど工夫してご使用ください。（※本部でも調達してありますが入手が制限されています。各事業所の福祉小口現金でも購入してください。）
- ② 消毒手洗いうがいの励行の強化に加え、食事の時間帯をずらす、距離を取る、飛沫感染リスクを避ける。極力5人以上の密にならない行動ができるように今一度、支援の内容や活動時間の見直しをしてください。
- ③ 定例会議やミーティングも緊急を要する内容でない場合は、オンライン会議や延期の対応をお願いします。
- ④ GH内に陽性者又は濃厚感染者が出た際、GH職員も濃厚接触者になり人員不足の事態となった場合日中活動事業所職員より、GHへの応援勤務を依頼します。人選は複合的に生活環境リスク等を考慮し決定します。（危険手当付与あり）。該当者へは、個別にご連絡させていただきます。
- ⑤ 本部への入室は、入り口付近までとさせていただきます。お約束のある場合のみ、手指消毒の上入室ください。

緊急事態宣言下での各事業所の営業時間（1/11～2/7）

【れんげ・やまぼうし平山台】やまぼうしの活動は、通常通りです、センターの一般開放は17時までとなります。

【ふれあいの森】 カフェ営業は16：00まで。（火・水は定休日）

《事業資金カンパへのご協力に感謝申し上げます。引き続きご協力お願いします》

会費・寄付納入者 2020年5月16日～2020年12月末

大口寄付：（株）シブス・小林則男・（株）滝沢建設・長谷川和子・長谷川英明・匿名希望1名

会費： 内田幸子・伊藤泰二郎・吉田敏彦・吉田一成・柳原勝広・徳井潤・金岡弘晃・内田栄・峯本まり子・吉開房代・吉開友耶・小嶋航・佐々木初江・森下綾子・草場清則・増島恭子・石谷典子・佐々木まり恵・山田卓・長谷川和子・碓君子・佐藤栄・小木曾寛治・西方智尋・水流尚子・吉村勝彦・荒井康子・片田宏・藤塚優理子・神宮真由美・木村佳子・川村淡・山本英巳子・春口明朗・小林美恵・安田美江・梅津美恵・井平保子・金田克明・高木一真・仲島美代子・横田朋弘・藤原多恵・日高万倫・須田昌宏・須田文子・（有）トス総合保険事務所・竹峰誠一郎・松原菜緒・都倉高久・日向野つる代・

寄付： 伊藤吾吾・東崎清恵・熊谷亜由美・金岡真三子・峯本まり子・佐々木初江・東深澤哲・伊藤勲・草場清則・石谷典子・小牧雄三・佐々木まり恵・中島嘉宏・山田卓・碓君子・藤内昌信・柳井喬文・木村佳子・秋池智子・安田美江・佐藤信行・井平保子・川端邦彦・須田文子・伊藤陽子・佐野幸利・松原弘毅・栗原ミチ子

振込先 【ゆうちょ銀行 記号9900 店番019 当座 0123984

特定非営利活動法人 やまぼうし【郵便局 記号00100-7番号123984特定非営利活動法人やまぼうし】

発行元 認定NPO法人やまぼうし

〒191-0062 東京都日野市多摩平2-12-2

Tel 042-581-7946

Fax 042-514-9507

E-Mail info@yamabousi.org

URL <http://yamabousi.org/>